

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会				
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)				
開催日時		令和 5 年 8 月 2 3 日 (水) 1 4 時 4 5 分 ~ 1 7 時 1 0 分				
開催場所		相模原市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室				
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 9 人 (脱炭素社会・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長 他 1 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由						
議 題		1 開会 2 審議会概要説明 3 会長及び職務代理者の選任について 4 議題 ( 1 ) 第 3 次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について ア 答申 (案) イ 各指標の数値目標 ウ 計画 (改定前) の振り返り エ 目標達成に向けた施策 5 その他 北清掃工場の建替整備の資料について 6 閉会				

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 開会

定足数の確認の上、開会した。

### 2 審議会概要説明

事務局から資料に基づき、本審議会の概要について説明を行った。

### 3 会長及び職務代理者の選任について

会長及び職務代理者の選任について、会長に竹田委員が選出された。  
職務代理者は後日選出することとなった。

### 4 議題

竹田会長の進行により議事が進められた。

#### ( 1 ) 第 3 次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について

##### ア 答申(案)

事務局から説明を行った。

##### 【質疑事項】

( 松平委員 ) 「 1 . はじめに 」 の部分で多額の費用が必要とあるが、分かりにくいので、具体的な金額を書いた方が伝わりやすい。

( 事 務 局 ) 検討させていただく。

( 中島委員 ) 私は麻溝地区の自治会連合会から選出されているが、麻溝地区はごみ処理施設が集中し、次期最終処分場の候補地にもなっているため、部会を設けて対応を協議している。また、自治会連合会でもごみ問題について協議しているため、そこでの議論も踏まえて意見交換したい。ごみ・資源集積場所に係る諸問題への対応について、自治会加入率が低くなり、自治会だけでは対処できなくなっていることを具体的に書いていただきたい。また、市にも一定の責任を持っていただき、自治会や地域と協働することを考えてほしい。

( 事 務 局 ) 検討させていただく。

( 中島委員 ) 家庭ごみの有料化を導入し、ごみの大幅な減量化を推進してもらいたい。前回は、家庭ごみの有料化と戸別収集が一緒だったので分けても

らったが、戸別収集の課題はここまで列挙する必要は無い。難しいことは十分承知しているが、段階的に進めてもらいたい。

麻溝地区は次期最終処分場の候補地であり、現最終処分場も麻溝地区にある。最終処分場がまた麻溝地区にできるのかと、麻溝地区の大勢の人が疑問を持っている。次期一般廃棄物最終処分場の候補地は、市内には最終処分場に適した場所がなかったため、条件を下げ、対策等を講じ立地の可能性がある場所を選定したと理解している。ごみの減量化を最大限行い、それでも新たな最終処分場を造る必要があるということなら検討の余地もあるが、現状のままでは、候補地となっている地域の理解は得られない。また、一定の方向性を見出すことが望ましいとあるが、抽象的でわかりにくいため、家庭ごみの有料化は喫緊の課題として取り組んでいただきたい。

(事務局) 検討させていただく。

(松平委員) 多摩市で戸別収集を実施したが、収集車両や人員等の収集運搬経費の増加はなかった。集積所にとどまりその場所で収集しているのと、歩きながら収集するの違いであり、ごみ量が増えているわけではない。多摩市では集積所にネットがなく、集合住宅等の戸別収集サービスが受けられない市民には、折り畳みできる金属製の蓋つき容器を無償配布して、課題をクリアした経験があるので、ぜひ参考にさせていただきたい。

また、集団資源回収については、取組があることを知らなかったのも、マンションの管理組合も参加できれば、伸びる取組であると思う。店頭回収や集団回収で焼却ごみを減らすのは、とても大事であり、集合住宅を中心に啓発することは良いと思う。

(中島委員) 有料化の補足だが、相模原市も20年以上前に有料化を検討し、実施の寸前まで行ったが、結局実施を決断できなかったと聞いている。もし、その時に有料化を導入していれば、大分状況が変わっていたはずである。

ごみゼロに向けた協働の推進にも自治会の加入率が下がっている中、自治会未加入者への周知の必要性を書いていたいただきたい。

「6. 施策の見直し」は、すでに実施していることを徹底することなので、施策の見直しではない。ごみの減量や資源化を加速するために見直す施策を書くべきで、内容を変えてもらいたい。

「8. おわりに」では、最終処分場の用地の確保や整備が課題とあるが、本来、市内に適した場所がなく、造ること自体が難しいにも関わ

らず、用地交渉や時間をかければ、最終処分場が確保できるように見えるので、表現を変えていただきたい。

(事務局) ご意見をいただいたので、検討する。

(山田委員) 不動産業者と連携した情報提供だけではうまくいかず課題としているのであれば、指導等一步踏み込んだ言葉を入れてはどうか。

(事務局) 検討させていただく。

(加賀谷委員) 事業者には引き続きプラスチック使用の抑制を働きかけることが必要であるとのことだが、地区のお祭りの際、ごみの分別を徹底しようとしたが、3分の1くらいの方は、平気でペットボトルをそのまま捨てており、分別意識がとても低い。

ラベルレスのペットボトルは、中身が見え、キャップを外すだけで済むので、このようなペットボトルが増えると良い。

(事務局) 参考にさせていただく。

(松平委員) ごみの適正な処理について、溶融スラグは最終処分場に埋め立てないために生成するものであり、最終処分場の覆土として有効利用したのでは本末転倒ではないか。

また、多摩市では集積場所に出されたペットボトルにラベルが付いているものが1本でもあったら、その集積場所から資源収集しない取組を12月から始める。市民同士が支えるという、市民力に期待すると言っていた。

(事務局) 溶融スラグは、基本的にはアスファルトに混ぜて骨材として有効利用しているが、すべてではなく、最終処分場の覆土としても利用している。環境省からは、それも有効利用の認識で良いとされているが、分かりやすいように修正する。

(事務局) 本日の意見を可能な限り答申案に反映させ、皆様にもう一度確認いただいて、見直しをさせていただきたいと思っている。最後は会長に確認いただき最終の答申案とさせていただきたいと考えている。

#### イ 各指標の数値目標

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(栗岡委員) ごみの排出量や最終処分量の計画目標値は、令和9年度まで順調に減らすとのことだが、この数値には一般ごみの有料化や、剪定枝の資源回収、無料で直接剪定枝を持ち込む場所が実現した場合の目標値なのか。

(事務局) 有料化の検討は今後進めていきたいと考えているので、この数値には反映していない。剪定枝に関しても今後の検討としており、こちらも反映していない。

(藤倉委員) 最終処分量とごみの総排出量の関係で、ごみの総排出量が減った年は最終処分量が増え、ごみの総排出量が増えた年は最終処分量が減っている理由を教えて欲しい。

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は、答申案にもあるが、一般ごみには紙や容器包装プラのような本来資源化できるものがあり、それらを完璧に分別したら達成できる目標なのか、さらに市民がごみを減らすことをしなくてはいけない目標なのかを教えてください。

食品ロス排出量は家庭系ごみだけの数値で、事業系ごみの数値は入っていないのかを確認したい。

生活排水処理基本計画のサブ指標1をダム集水区域の生活排水処理率に変更するのは良い。

(事務局) 最終処分量については、ごみの排出量も影響するが、スラグの有効活用も影響している。スラグが有効活用されれば、最終処分量も減るため、必ずしもごみ排出量の増減と同じになるわけではない。

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量の目標値は、分別の徹底だけではなく、新しい施策や現在の施策をより一層市民の皆さまにご協力いただくことで、461gから450gにするイメージである。

また、食品ロス排出量は、家庭系ごみだけの数値である。

(藤倉委員) 例えば、一般ごみの中に紙が3%、製品プラスチックが2%入っていると、それらを除くと95%になる。このように計算すれば、分別を徹底すると、数値がどこまで減るのか出るはずである。資料として規模感を出していただければ、市民にも分かりやすいと思う。

食品ロスについては、タイトルを「家庭からの食品ロス排出量」と修正していただきたい。

(中島委員) 令和5年度以降の推計値について、どのように算出しているのかを教えてください。

また、できるだけ高い目標を持って取り組むことが、大切であり、達成できそうな数値を目標値にするのではなく、色々な取組により目指すところに目標値を決めていただきたい。

(事務局) 推計値は、新規施策や今後強化する施策等を総合的に加味して算出した。また、すぐに達成できそうな目標値ではなく、市としてここまで何とかしようと設定したもので、簡単に達成できる目標値を設定したものではないことをご理解いただきたい。

(中島委員) 現在の目標値と新しい目標値を比較すると、ごみの総排出量は約3%、最終処分量は約5%下がっているが、色々取組を強化していくにしては少し数値が小さいと感じたので、少しでも目標値を高くして、それに向けて努力する形にしていきたい。

(山田委員) 事業系のごみ排出量については、リーマンショックやコロナの影響を除いて推計値、目標値を設定したとのことだが、年々排出量が増加しているのは、今後事業所が増加傾向にあるからやむを得ないということか。

(事務局) 事業系ごみの排出量は、リーマンショックやコロナ禍の影響を除いた傾向で考えると増加傾向にあったため、推計値も増加傾向になっている。

ウ 計画(改定前)の振り返り  
事務局から説明を行った。

#### 【質疑事項】

(松平委員) 過剰包装やレジ袋等の削減について、例えば、仕出し弁当の容器にプラスチックの使用を規制する等、庁内でプラスチックの使用の規制や、プラスチックの削減につながる取組を行っているのか。

(事務局) 庁内の会議において、ペットボトル等の飲み物は配っていない。なお、仕出し弁当容器にプラスチックの規制はしていない。

(松平委員) 多摩市では、庁内に出入りする弁当業者に、プラスチックの使用を禁止していた。そういう面からもプラスチック削減の取組を行ってほしい。

(中島委員) ごみ処理手数料の在り方の調査研究について、「ごみの減量化・資源化を進めるため、今後の家庭から排出される一般ごみの排出量や社会経済状況等を踏まえて、家庭から排出される一般ごみの有料化の検討

を進める必要があります。」とあるが、最終処分場の延命化という視点も踏まえて記載していただきたい。

(松平委員) 2 - 4 社会情勢の変化に伴う新たな課題の「(1) プラスチックごみ対策」について、製品プラスチックの収集については、ぜひ店頭回収や拠点回収を中心に実施していただきたい。

(栗岡委員) プラスチックは、原料調達段階から廃棄段階のあいだに1kgのプラスチックで5kgのCO2が排出されるということをホームページに載せている自治体もある。プラスチックは採掘段階から問題であるということを周知するためにも、原料調達の時点からという書き方にしたほうが良い。

(栗岡委員) 「(3) 脱炭素社会の実現に向けた取組」について、国連の事務総長が、これからは地球沸騰化の時代である、と話していたので、「地球温暖化(地球沸騰化)」としても良いのではないかと思う。

## エ 目標達成に向けた施策

事務局から説明を行った。

### 【質疑事項】

(松平委員) 事業系ごみのマニフェストという事業があるが、事業系一般廃棄物は基本的に、生ごみと紙になる。生ごみと紙をどこに処分したかということ、マニフェストにする必要があるのか。あまり意味のないものとする。この取組は、削ったほうが良いように感じる。

(藤倉委員) 事業系ごみのマニフェスト制度については、あったほうが良いと考える。

(事務局) マニフェストについては、その実現性について、現在検討を行っている段階である。マニフェストの導入は許可業者も事務量が増えるので、まずは、搬入物検査の徹底等、行政としてできることを行っていきたいと考えている。

(松平委員) 最終処分場については、自分の家の近くに造らないという市民の強い願いもあると思う。東京都の多摩地区で行っているエコセメント事業等の調査検討を進めますといったような、最終処分場を造らないための検討等の取組を入れたほうが良いのではないか。

(事務局) 多摩地区(日の出町)で行われているエコセメント事業については、東京都主導の下、26市町村が力を合わせ長い年月をかけて作ったもの

であると認識しており、具体化するのにはハードルが高いのが現状である。

(中島委員) ごみ処理手数料の在り方の調査研究について、「ごみの減量化・資源化を進めるため、今後の家庭から排出される一般ごみの排出量や社会経済状況等を踏まえて、家庭から排出される一般ごみの有料化の検討を進める必要があります。」とあるが、最終処分場の延命化という視点も踏まえて記載していただきたい。

(中島委員) ごみ・資源集積場所への不法投棄については、対策をきちんと取ってほしい。

(中島委員) ごみ処理段階におけるさらなる資源化による最終処分場の延命化の検討という取組を追加しているが、最終的に、最終処分場を造らないという段階までもっていけるように取り組んでもらいたい。

(中島委員) ごみ・資源集積場所の設置、維持及び管理については、自治会の加入率が低下しているため、市も一定の責任を持つ形の対応を考えていただきたい。

(中島委員) 災害廃棄物等処理への備えについて、「仮置場の確保に向けた検討」という取組があるが、仮置場については、市民にとって近い場所に設ける必要があり、既存の施設を利用することも可能であるとする。例えば、今の最終処分場の跡地を仮置場とすることで、次に造る最終処分場の面積を小さくし、地域にとって負担を軽くすることが出来るという側面もあるので、そういった視点も踏まえて検討してほしい。

(大河内委員) 生活排水処理のサブ指標を変更したいということで説明があったが、一方で、資料3の近似式のグラフを見ると、ものすごく傾きを大きくしないと目標値には達しないと思う。そういった現状を踏まえ、取組の柱に記載されている取組では弱いように感じる。何か具体的な策があれば、盛り込んでいただければと思う。

(事務局) 生活排水処理のサブ指標については、下水道ビジョンの目標値と合わせている。下水道ビジョンについては、今後改定を予定しており、そのタイミングで取組の整理を考えている。そういった要因も踏まえ、現状では記載のとおりとしている。

(大河内委員) プラスチックごみの削減について、行政の取組に「割り箸、プラスチック製品のスプーン・ストロー等の利用削減」という取組があるが、割り箸はプラスチックではないので、取組に書くのは違和感がある。



(事務局)「割り箸」については取組の文言から削除する。

(大河内委員)最終処分場や、2工場体制の維持が大切であることを、コラムに記載してはいかがか。

(大河内委員)エネルギーや資源の有効活用(工場等における脱炭素への取組)については、発電効率の向上について触れているが、ここ数年、ごみ焼却工場でCO<sub>2</sub>を分離して回収・利用するような実証実験が始まっている。そういった技術の導入が可能であるのか。また、発電効率の向上だけではなく、「温室効果ガスの削減に資するような新技術の導入検討・情報収集」という取組も追加したら良いのではないか。

(事務局)横浜市鶴見区と東京ガスが同地区内で実証実験を行っていることは把握しており、採算性等、動向を注視しつつ、参考にしたいと考えている。

(大河内委員)CCUS(分離・貯留したCO<sub>2</sub>を再利用する技術)の導入に関する取組を追加してほしいのではなく、脱炭素に向けた技術革新を見据え、情報収集・検討を継続して行うことについて、取組として記載してほしい。

(藤倉委員)「減量化等計画書に基づく多量排出事業者への指導の強化」という取組があるが、減量化等計画書の未提出事業者については、法律違反になるので、氏名公表すべきであり、もっと徹底していただきたい。

(藤倉委員)生ごみ・食品ロスの削減と資源化(食品ロス削減推進計画)について、事業系ごみこそ数値目標を立てて取り組む必要があると思う。

(藤倉委員)コラムにて、食品廃棄物と食品ロスの定義を明確にしてほしい。

## 5 その他

(1)北清掃工場の建替整備の資料について

事務局から説明を行った。

(2)その他

事務局から今後のスケジュール等について説明した。

## 6 閉会

## 相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
2	石川 冬子	さがみはら消費者の会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
4	近江 良一	相模原商工会議所		出席
5	大久保 匡	相模原廃棄物対策協議会		出席
6	大河内 由美子	麻布大学		出席
7	落合 幸男	相模原市農業協同組合		欠席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
9	栗岡 理子	公募		出席
10	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
11	武井 俊長	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
12	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
13	中島 勝平	相模原市自治会連合会		出席
14	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
15	藤倉 まなみ	桜美林大学		出席
16	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		欠席
17	松平 和也	公募		出席
18	矢部 健	相模原地域連合		欠席
19	山田 とし子	相模女子大学		出席